

子どもの心の発達を知ろう

～エリクソンの8つの発達段階～

入間市教育委員会
家庭教育応援通信
2024年10月



こんにちは こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では
子育てに必要な情報を皆様にお伝えしていきます。

今回は
心理学者のエリクソンが提唱した
心の8つの発達段階を紹介しながら
子育ての見通しについてお伝えしていきます



入間市マスコットキャラクター
「いるティー」

8つの発達段階

発達心理学者のエリクソンは、ヒトの発達段階について、次のように提唱しました

- 乳児期 (生後～1歳半)
- 幼児前期 (1歳半～3歳)
- 幼児後期 (3歳～6歳)
- 学童期 (6歳～13歳)
- 青年期 (13歳～22歳)
- 成人期 (22歳～40歳)
- 壮年期 (40歳～65歳)
- 老年期 (65歳～)

エリクソンの主張

各段階でポジティブな(プラスに作用する)力とネガティブな(マイナスに作用する)力が働く

プラスが勝ると生きる力が湧き、マイナスが勝ると自己否定や人への不信等が生まれる

8つの発達段階

発達心理学者のエリクソンは、ヒトの発達段階について、次のように提唱しました

エリクソンの主張

- 乳児期 (生後～1歳半)
- 幼児前期 (1歳半～3歳)
- 幼児後期 (3歳～6歳)
- 学童期 (6歳～13歳)
- 青年期 (13歳～22歳)
- 成人期 (22歳～40歳)
- 壮年期 (40歳～65歳)
- 老年期 (65歳～)

プラスの力だけあっても育たない。プラスとマイナスが競う中でプラスがマイナスを上回る経験をすることが必要である

この力の拮抗は生涯にわたって続き、様々な形で何度も獲得実感していく

子育て期の発達段階とは

段 階	プラス	マイナス	→ 獲得するもの
・ 乳児期（生後～1歳半）	信頼感	> 不信感	→ 希望を獲得
・ 幼児前期（1歳半～3歳）	自律性	> 恥や疑惑	→ 意志を獲得
・ 幼児後期（3歳～6歳）	積極性	> 罪悪感	→ 目的意識を獲得
・ 学童期（6歳～13歳）	勤勉性	> 劣等感	→ 自己効力感を獲得
・ 青年期（13歳～22歳）	自己同一性	> 役割拡散	→ 忠誠心を獲得

例えば、乳児期を見ると信頼感（プラスの力）が不信感（マイナスの力）を上回ることによって子どもは「希望」を獲得します

子どもは各段階でこのような経験を積んでいくということです

乳児期 ～「希望」の獲得～

(生後～1歳半)



赤ちゃんが泣いて助けを求める時期

プラスの力

信頼感

マイナスの力

不信感

いつも自分の欲求が満たされるとは限らない**不信感**がある中で授乳などの適切な世話を受けるという**信頼感**が勝る体験をする



「自分は生きてもいいんだ」「必ず誰かがちゃんと見てくれる」という**希望を獲得する**

ただし、不信感（満たされない場面）を経験しておくことも大事

幼児前期 ～「意志」の獲得～ (1歳半～3歳)



「じぶんがやる」という自己主張の時期
(いわゆるイヤイヤ期と言われる時期です)

プラスの力

自律性

マイナスの力

恥や疑惑

失敗するかも？叱られるかも？という恥や疑惑を持ちつつも
「自分でやってみる」「できた」という自律性が勝る体験



「機会があれば、もっといろいろなことをしてみよう」という意志
を持つことができる

幼児前期 ～「意志」の獲得～ (1歳半～3歳)

挑戦の機会を奪ったり、挑戦して失敗したことを非難するのはNG

- × 「ママ（パパ）が全部やってあげるからね」
- × 「まったくもう、だからダメって言ったのに！！」

- 「そうか、そうか、自分でしたかったんだね」
- 「うーん、残念！でも、次はだいじょうぶ」



トイレトレーニングなど保護者の適切な見守りがしつけになる

幼児後期 ～「目的意識」の獲得～ (3歳～6歳)

積極的な社会参加、なぜなのか知りたい、まねしたい時期
(なぜなぜ期と言われ、脳神経が急成長する時期です)

プラスの力

積極性

マイナスの力

罪悪感

他児との衝突による非難、親から注意叱責を受け処罰されるかも
という不安（**罪悪感**）を持ちながらも、「あれもしたい、これも
したい」といった自分で考え行動する**積極性**が勝る体験をする



目的意識という活力（後の「希望」や「夢」の土台）
を獲得する



幼児後期 ～「目的意識」の獲得～ (3歳～6歳)



積極性は衝突も招きますが、
保護者の適切な注意や助言により
ルールを身に付けます



保護者がめんどくさいという態度をとったり、あまりに厳しく叱りつけると、子どもの罪悪感が勝ってしまい、自発的な活動を妨げることになります

学童期 ～「自己効力感」の獲得～ (6歳～13歳)

競争が少なく守られた家庭から離れ、同年代の子たちと関わり自分の得意不得意を感じ取っていく時期

プラスの力

勤勉性

マイナスの力

劣等感



(積極性を生かし) 自分で工夫や努力をし、望むこと(目的)を達成するための**勤勉性**を発揮する一方で、新しい環境での失敗や叱責で傷つき人に負けるといった悔しさ (**劣等感**) を抱きます。



他者からのねぎらいや「よくやったね」という優しい言葉で自信をつけ、「自分もやればできる」という**自己効力感**を獲得します

学童期 ～「自己効力感」の獲得～

(6歳～13歳)

この時期にがんばったり苦勞を乗り越えたりする体験がないと、自ら学ぶことや物事に取り組む力が弱くなってしまいます

- × 保護者がただできないことを咎める
- 保護者が努力を認め挑戦した姿勢を褒める
 - やさしい言葉かけによって自己効力感を獲得します
 - できたことを過度に褒め過ぎず、
 - できないときには適切なフォローを



自己効力感＝自分の力を信じられる感覚

自己肯定感＝自分のありのままを尊重する感覚

自己有用感＝自分が他者に必要とされているという感覚

思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～ (13歳～22歳)

体と心が大きく変化する時期

〔 第2次性徴 異性への関心 性的欲求衝動
(親からの) 自立願望 仲間意識 親への反抗 〕



ここでの最大のテーマは「アイデンティティ」の確立です

「アイデンティティ」は、実はエリクソンが考えた言葉です
日本語では自己同一性（自我同一性）と呼ばれます

思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～

(13歳～22歳)

「アイデンティティ（自己同一性）」の確立とは
自分の人生や価値観について悩み、苦しんだ結果、
自分の考えを持ち、その考えに伴って行動ができている
かつ、自分はどんな存在なのかを理解できていて、
自己の短所・長所も理解できている状態であること

その結果、自分自身の価値観を信じ、それに対して貢献し
応えようとする「**忠誠心**」を獲得し、人生を主体的に選択し
ていくことができる



思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～ (13歳～22歳)

アイデンティティ（自己同一性）の確立過程

理想とする人物に出会い、模倣するが、やがてその人とは違う自分に気づく（アイドルに憧れるが違いを受け入れ現実の異性に関心を持つ、など）

同時に、様々な人との交流や体験を通して自分の限界に気づき、その都度前向きに方針転換をする中で、「自分らしさ」が明らかになっていく

つまり、確立するまでの過程には、自分の理想との出会い、豊富な交流や経験による悩みや葛藤が必要



思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～ (13歳～22歳)

現代社会でアイデンティティの確立が難しくなっている理由

今の若者の世界は、SNSの出現で
自己主張より相手に合わせることが求められている
異質なものは排除され、人間関係が固定化し、縮小している



「人は、相手を鏡としてそこに映る自分の姿を見て自分を知る」
自分がじっとして動かず、かつ、映し出す鏡の数も減ってしまえば
そこに映る姿から自分が何者かを理解することは難しいでしょう

思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～ (13歳～22歳)

加えて日本社会そのものが、

昔の家長制のような縛りがなく自由でフラット

職業や価値観の多様化、性役割の変化、過剰な情報社会

→選択肢が多すぎて自分の理想をイメージしにくくなっている

今の日本の若者は、アイデンティティが確立できず、**拡散**（自分が散り散りになってまとまらない状態）の危機にさらされていると言えます

思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～ (13歳～22歳)

このように、この時期は非常に危うい時期ではあるけれど、同時に、**過去を取り戻すチャンス**の時期でもあるのです

親の言うままに生きてきた子が自分の考えを主張しだす
無気力だった子が夢中になるものに遭遇して積極性を得る、…

子どもが

人生は**いつでも取り返すことができる**ことを理解すること
何らかの役割を得て、**社会から必要とされると実感**することはアイデンティティ確立の助けとなるでしょう

思春期・青年期 ～「忠誠心」の獲得～ (13歳～22歳)

なお、この時期に、母親が男の子の思春期を理解していないと

- ・ 近づきすぎて子の自立を妨げる
- ・ 女の子と同じように接して、子の性的アイデンティティ（自分が性的にどのような存在か）が形成できない

といった別の問題が起こることがあるので注意しましょう



成人期

(22歳～40歳)

壮年期

(40歳～65歳)

老年期

(65歳～)

成人期 職場や家庭での役割を得て責任を負う時期

親密性（友情、恋愛、結婚など他者との結びつき）を得るためにはアイデンティティの確立が必要であり相手に受け入れられないと孤独感が生まれる

壮年期 職業や子育ての知識技術を次世代に伝達する時期

他者と関わらないと停滞（自己満足・自己陶醉）する

老年期 死を意識し人生を回顧する時期

自我の統合（世界や人類の秩序と意味、自分の人生の受け入れ）が課題で、死を受け入れられないと絶望（衰えへの恐怖）を抱く

エリクソンの発達段階 まとめ

- 乳児期
- 幼児前期
- 幼児後期
- 学童期
- 青年期

各段階で何が必要か(必要だったか)を知って、親として見守ることが大切です。

一度学んだから大丈夫とは言えない代わりに、あとから学びなおすこともできるということも覚えておきましょう。

人生の主役は子ども自身です。

人生を主体的に選択していくことが幸せにつながるのです。

子どもの遊び集団のない今の社会では、夫婦間、親子間のコミュニケーション不全是解決をますます難しいものにしてしまいます
→家庭の中に、叱責やグチではない「会話」を増やしましょう

おまけ ～あたたかい言葉8種～

1. 認める言葉 「がんばったね」 「本当、頼りになるわ」
2. 感謝を伝える言葉 「ありがとう」 「助かったよ」
3. 支える言葉 「私は味方だよ」 「応援してるからね」
4. 寄り添う言葉 「私にできることない？」 「よければ話を聞くよ」
5. 慰める言葉 「がんばったじゃん」 「そんなこともあるよ」
6. 勇気づける言葉 「きっとできるよ」 「大丈夫」 「やってみなよ」
7. 感動を伝える言葉 「さすがだね」 「すごい」 「きれいな夕日だね」
8. 存在をそのまま承認する言葉 「あなたがいてくれてうれしいわ」

今日は、どの言葉を伝えましょうか？

アンケートへのご協力をお願い

本通信の今後の向上のため、下記のURLをクリックしてアンケートにご協力ください

<https://forms.gle/63GL87oDoVPwiVEa6>

ありがとうございました

